

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077900159
法人名	医療法人 福田病院
事業所名	グループホームとまと
所在地	福岡県三潁郡大木町大字大角1133-3 (電話) 0944-75-2345

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年12月20日	評価確定日	平成20年2月20日

【情報提供票より】 (平成19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 18日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	16人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造スレート葺 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年12月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	6 名	女性	10 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人福田病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新旧の民家の家並みと田園に囲まれた事業所は、関連の特別養護老人ホームと隣接し、地域の雰囲気や溶け込んでいる。2ユニットワンフロアの広々とした共用空間は、利用者作品の絵・習字・パッチワーク等が飾られ、明るく開放感がある。そこで会話を楽しむ利用者の穏やかな笑顔に安心の日々が伺える。管理者・職員は利用者一人ひとりをより深く理解し、その人らしい自己資源、能力維持のアイデアを話し合い、寄り添ったケアを実践し利用者や職員のふれあいを大切にしている。24時間の医療連携体制もあり、生活面・医療面で本人・家族が安心して生活できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題は、運営推進会議にも報告して意見を貰い、全職員で話し合って改善シートを作成して取組んでいる。市町村との連携、人権教育・啓発活動等について、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全員から意見を聴取し、管理者が集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的に開催し、利用者やサービスの実態を報告し、助言・アドバイスを貰っている。外部・自己評価についても報告し、意見を聴取している。委員から感染症についてのアドバイスをもらって実践したり、地域行事の案内をもらって参加する等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	年2回、家族会を開き、意見等を聴取している。また意見箱を設置し、第三者相談・苦情窓口については、繰り返し説明している。事業所の支援や外出支援についての意見や感想を貰い、それらの意見を運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入して、地域行事に参加し、事業所便りを配布している。近隣中学生の体験学習の受け入れや幼稚園児との交流がある。年2回の事業所主催の祭りには、家族会・地域住民等、多数の参加があり、地元の人々と交流することに努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に「地域の一員として生活できるように」と地域密着型サービスの視点が含まれ、利用者のケアに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に理念の確認をし、定例の全体会議で唱和している。採用時に説明して意識化を図り、言葉かけ・態度・記録等で、職員は理念に基づくケアを実践している。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して、地域行事に参加し、事業所便りを配布している。近隣中学生の体験学習の受け入れや幼稚園児との交流がある。年2回の事業所主催の祭りには、家族会・地域住民等、多数の参加があり、地元の人々と交流することに努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全員から意見を聴取し、管理者が集約している。運営者・全職員は評価の意義・目的を理解し、前回の評価での改善課題は、運営推進会議にも報告して意見を貰い、全職員で話し合っ改善シートを作成して取組んでいる。市町村との連携、人権教育・啓発活動等について、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、利用者やサービスの実態を報告し、助言・アドバイスを貰っている。外部・自己評価についても報告し、意見を聴取している。委員から感染症についてのアドバイスをもらって実践したり、地域行事の案内をもらって参加する等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広報・事業所便りを行政に持参し、今後の方針等を話したり相談している。研修参加や介護教室の受託についての情報交換・連携も積極的に図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は制度に関して入居時に本人・家族に話し、また年2回の家族会でも説明している。職員は内部・外部の研修を受講し、テキスト・研修記録・報告書がある。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、個別に作成した事業所便りを手渡しまたは郵送している。来訪時には利用者一人ひとりの暮らしぶりや近況をきめ細やかに報告し、行事の実施・案内・職員の紹介等をしている。緊急時には電話連絡をし、その後、手紙・写真を手渡している。金銭管理については、個別の出納簿を作成し、月毎に家族に開示して、領収書は原本を渡し、確認のサインを貰っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、家族会を開き、意見等を聴取している。また意見箱を設置し、第三者相談・苦情窓口については、繰り返し説明している。事業所の支援や外出支援についての意見や感想を貰い、それらの意見を運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	勤務体制に柔軟に対応する等、異動や離職を最小限に抑える工夫をしており、異動は少ない。交替する場合は引き継ぎ期間を十分に設け、その後馴染んだ職員がカバーしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては公平性を持ち、年齢・性別で排除しないようにしている。個々のキャリアを配慮し、生き生きと働きながら自己実現が出来るよう環境作りを図っている。本人の意向を配慮・尊重して、研修等を計画している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>管理者が外部研修を受講し、テキスト・パンフレットを用いて、職員へ伝達講習をしている。研修記録・報告書があり、人権教育・啓発活動への取り組みが確認できた。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は、外部・内部研修について日常的に職員へ参加を呼びかけ、働きながらのトレーニングを進めている。研修参加表を作成し、全職員が順番で参加している。研修報告は全体会議で行い、全職員で共有している。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者ネットワークに加入し、管理者2名が年4回の会合に参加している。職員は近隣事業所と関わりはあるものの、交流には至っていない。</p>	○	職員を含む全員で、地域の同業者と交流する機会を積極的に持ってほしい。
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に、見学や自宅訪問を行い、馴染みの関係を築くよう家族等と相談しながら工夫している。やむを得ず病院から即利用となった場合は、しばらく家族に付き添いの協力をお願いしたり、職員の声かけで安心できるよう工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、裁縫が得意の人には繕い物や裾上げをお願いして感謝の気持ちを伝えたり、金柑漬けの上手な人から漬け方を習っている。調理の得意な人からは野菜の揃え方・煮方を習う等、共に学び支えあう関係を築いている。</p>		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の表情・動き・言葉等、日々の関わりの中で、希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者は、表情から察したり、家族や関係者から話を聴取し、本人本位に検討している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>認知症アセスメントシートを用い、本人の生活歴や家族からの意見・希望・要望・気づきなどの情報を確認している。それを元に、職員の意見・アイデア・気づきを反映させた利用者主体の介護計画を作成し、本人・家族確認のサインを貰っている。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月1回、モニタリングで介護計画を評価し、6ヶ月に1回見直している。状態変化時には随時見直し、現状に即した計画を作成して、家族へ電話で伝えた後、手紙を郵送して確認して貰っている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人・家族の状況に応じて、通院や送迎等は柔軟に対応している。利用者が入院した場合は、利用者・家族・事業所・医療機関と連携を図り、早期退院を支援している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医を受診している。週1回、定期的に往診があり、また24時間対応が可能である。皮膚科・歯科医とも連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について方針がある。入居時や折に触れて、本人・家族に説明している。本人・家族などの意向・意見を尊重し、かかりつけ医・全職員で話し合い、全員で方針を共有している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	月2回の勉強会やミーティング時に、プライバシーの確保・個人情報保護法等について学習し、職員の意識向上を心がけている。管理者は職員に対し、言葉かけ・礼儀・さり気ない介助・記録への配慮や大切さを話している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、起床・就寝時間など利用者のペースに合わせ、個々を大切にしている。買い物・散歩・新聞を読む等、その日そのときの希望にそって支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に調理・盛り付け・片付けをしている。同じものを同じテーブルで食べ、楽しい雰囲気である。誕生日には希望食にし、毎月1日はお赤飯を炊き、月初めを意識している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日いつでも入浴可能で、利用者一人ひとりの体調・希望に合わせて支援している。入浴拒否する人には、時間や人を代え、言葉かけを工夫して支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や漬物、繻い物、習字・絵・パッチワーク、畑の苗植え等、一人ひとりの力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や体調、天候に配慮しながら、朝夕に近隣の公園や事業所周辺を散歩している。日常的に買い物を行い、2ヶ月に1回、季節の花見や地域の祭り等を観賞しにドライブへ出かけている。12月は利用者・家族の希望で、市街地のイルミネーションを観に、足を運んでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関を施錠していない。職員は利用者の外出傾向等を把握しており、センサーに頼らず、見守りや付き添いを行っている。近所へも見守りや声かけを依頼している。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策はマニュアルを作成し、消防署の協力を得て、年2回、消火・通報・避難訓練を行っている。地域の協力体制は、運営推進委員会を通じて、地域や消防団に呼びかけている。災害時の非常用食料・備品を準備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量及び水分摂取量の記録が全利用者分ある。管理者が栄養士であり、透析食も管理している。献立は利用者と職員で相談して作成し、一人ひとりの嗜好を考慮し、誕生日の希望食や赤飯等、習慣に応じた支援もしている。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>高窓からの採光は柔らかかで明るい。利用者の作品や季節の花を飾り、ソファでのテレビ観賞やうたた寝等、居心地よく寛げるよう工夫をしている。不快と感じる音もない。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたテーブル・椅子・テレビ・冷蔵庫・整理筆筒・家族写真等を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。物品を確認するためのホワイトボード、外出の日を待つ楽しみのためのカレンダー等、その人らしさへの工夫がある。</p>		

※  は、重点項目。